

**沼田市市民構想会議提言書（「人口減少・  
超高齢化社会を見据えた沼田市の活性化」に  
係る意見・提言）に対する回答について**

令和元年6月  
沼田市

## 目 次

1. 現状と課題	1
2. 目指すべき将来像	1
3. 提言（改善策）	
(1) 豊かな農村環境を支える中山間地農業の維持	2
(2) 食と農と環境が調和した豊かな市民生活の創造	3
(3) もてなしのこころ豊かなまち	4
(4) 発見とふれあいのあるまち（モノ消費からコト消費へ）	6
(5) 観光イメージの確立と情報発信	7
(6) 広域連携による観光推進	8
(7) その他委員提案例	
① 人口減少対策	9
② 行政と市民の連携・協働について	11

## 1. 現状と課題

○ 沼田市の人口は、近年減少傾向が続いており、国勢調査によると平成27年では48,676人であり、平成22年からの5年間でおよそ2,600人の減少となっている。特に生産年齢人口の減少が著しく、老年人口は増加している。将来推計でも人口減少は続き、平成38年には42,900人になると見込まれ、今後、深刻な財政危機に陥る危険性があり、沼田市が将来にわたって持続可能な行政運営を図るためには、人口の減少に相応した施策を講じることが喫緊の課題となっている。

○ 農業については、気候を活かした高品質でおいしい農産物が生産されており、交通の利便性が高いことから、首都圏へ高原野菜の出荷が盛んであり、また果樹を中心とした観光農園が多く、年間を通して多くの観光客が沼田市を訪れている。

その一方で、農家の減少や農業従事者の高齢化・後継者不足、また、中山間地域で狭隘な農地も多く、経営規模も比較的小さい状況にあり、加えて鳥獣被害も増加しており、耕作放棄地が拡大している。

また、市の面積の8割を占める森林においては、木材産業の低迷、生活様式の変化による木材の過少利用、森林所有者の高齢化などにより、森林の維持・管理が十分行き届かなく、自然災害のリスク、鳥獣被害の多発、景観の悪化を招いている。

○ 観光については、首都圏に近く、自然、歴史・文化など観光資源に恵まれており、吹割の滝、玉原高原や観光果樹園などに多くの観光客が訪れている。一方で観光地間の連携が乏しく、そのため集客力が分散され、また観光客に優しいサインなどの地域をあげての環境整備が遅れており、その魅力を十分に生かしきれていない。また、市民に観光が重要であることの意識が十分に醸成されていないため、観光がもたらす経済波及効果があまり認識されていない。

## 2. 目指すべき将来像

○ 人口減少、少子高齢化が続けば、いずれ地方行政は行き詰まり、行政サービスは低下、縮小していくことになる。こうした中で、市民が快適で安心な暮らしを営んでいける持続可能な地域社会を形成するためには、沼田市の持つ豊かな地域資源を活かした地域経済の活性化を図ることが必須である。

こうした地域資源について、まずは市民が気づき、自ら楽しみ、関わることでまちに対する愛着や誇りに思う気持ちが育まれ、無形の資源として、まちの魅力をさらに高めることにつながるばかりでなく、人口減少を交流人口の増加で補うことにより、経済収入の確保に繋がる。

このように、市民合意の地域アイデンティティーを確立し、住む人にとっても、また、訪れる人にとっても居心地の良いまちづくりを、行政と市民が連携・協働してその実現を目指す。

### 3. 提言（改善策）

#### （1）豊かな農村環境を支える中山間地農業の維持

- ① 小規模農家の意欲向上を図るため、消費者のニーズと生産現場を結びつけた高品質、高付加価値な売れる農産物の生産・販売への取組を産学官連携により進める。

【委員提案例】

- ・ りんごなど果汁加工施設を関係団体、ノウハウを持つ食品企業の退職者等で設立し、沼田市産として販売
- ・ NPO等による地域型営農組織の構築と直売所(アンテナショップ)の設置

#### <提言に対する回答>

〔農林課〕

- ・ 本市では、ぬまたブランド農産物認証制度により農産物のブランド化を推進して参りました。認証した農産物の販路拡大として、県主催のビジネス商談会への参加や都内飲食店等と生産者との産地見学マッチングツアーを実施して参りましたが、今後も販路拡大に向けた支援を進めて参りたいと考えます。
  - ・ また、沼田市6次産業化推進戦略を平成31年3月に策定し、6次産業化に取り組む農業者への支援を行うとともに、商品開発・販路開拓のために農業者と商工業者等の異業種での連携の促進を図って参りたいと考えます。
- ② 農地の流動化が進まない小規模農地や耕作放棄地について、「市民農園」や「農業体験の場」として活用し、市民や来訪者への貸出を推進する。また、作物作りのアドバイスや圃場の管理について、経営移譲、離農等をした高齢者を活用する仕組みを構築する。

【委員提案例】

- ・ ノウハウを持った市民を活用したアドバイザー・講師の育成
- ・ 空き家や廃校を農業体験の拠点として活用

#### <提言に対する回答>

〔農林課〕

- ・ 本市の中山間地域にある農地には、小規模農地や傾斜地等の耕作放棄につながるような農地や担い手への集積に支障となる農地があります。そうした農地を地域資源として捉え活用の検討を行うことは大変重要と考えます。それぞれの地域の実情に合わせ地域との連携を図っていきたいと考えます。

また、市民が農地を利用し、農作物の栽培を通じて自然に親しみ、農業に対する理解を深めるとともに、利用者同士がふれあい、交流を深めることを目的として沼田市民ふれあい農園を戸鹿野町に設置しております。沼田市の伝統野菜である沼須ねぎの栽培講習会やネギ苗の販売を行うなど市民農園利用者と生産者との交流を図っております。

## (2) 食と農と環境が調和した豊かな市民生活の創造

- ① 沼田産の安全・安心な農産物食材を学校、市内小売店、飲食店に供給していく食材供給ネットワークを行政、関係団体や市民などで構築し、地産地消の拡大を図る。

### 【委員提案例】

- ・ 有害鳥獣を活用したジビエ産業の育成（群馬県と連携し、鳥獣解体施設と販売組織を整備し、検査及び出荷体制を構築した上で、国に出荷制限の一部解除申請を行う）
- ・ 小売店・飲食店に市認定の安心マークを掲げた地産コーナーを設置し、地産地消を促進

### <提言に対する回答>

〔農林課〕

- ・ 野生鳥獣肉については群馬県内では100ベクレル/kgを超える放射能セシウムが検出されており県内全域で出荷制限となっております。食の安全性を確保していくためにも群馬県での全域解除に向けた動きに注視しつつジビエ産業の研究を進めていきたいと考えます。
  - ・ 平成30年度より、「南郷市場・やさいの杜」の2カ所にぬまたブランドコーナーを設置しており、今年度においても、引き続き沼田農産物のPRを行っていききたいと考えます。
- ② 沼田産農産物を使った独自レシピを市民や高校生等から募集するとともに、6次化商品を産学官で開発し、新たな名産品をとしてSNSなどで内外に発信する仕組みをつくり、農産物の普及と購買意欲を高める。

### 【委員提案例】

- ・ 郷土料理の掘り起こしや、沼田産農産物を使った沼田をイメージする料理等の開発

### <提言に対する回答>

〔農林課〕

- ・ 沼田市の主要農産物43品目をずかん形式にした「沼田市ずかん」を作成し、SNSでの利用を想定して、インターネットが繋がる環境であれば確認できるよう公表しております。  
また、市ホームページの「ぬまたキッチン」において、地元の各食材を活用したレシピを合わせて公開しております。今後も生産者や料理研究家等の関係者と商品開発や料理について研究していきたいと考えております。

### (3) もてなしのこころ豊かなまち

多くの観光客を呼び込み、リピーターを増やすためには、沼田市を訪れる人たちを行政、市民、観光に関わる人々が快くもてなす体制づくりが必要であり、そのためには、市民がまちの歴史や文化を大切にする心と、歴史遺産などの観光資源を大事にする心を持つことが重要である。もてなす心を育むために、地域での学習の機会づくりや市民自身が歴史遺産の活用や保全に関わることのできる仕組みの構築を図る。また、健康高齢者を活用し、観光ガイド・ボランティアなどの育成を行う。

#### 【委員提案例】

- ・ 観光案内所を拡大し、テナントによる食堂と物産の販売
- ・ 歴史資料館を活用した学習会及びボランティア育成
- ・ 幅広い案内ができる観光ガイドの育成
- ・ 玉原センターハウスを活用し、玉原の自然等を学べる資料館の設置

#### <提言に対する回答>

〔観光交流課〕

- ・ 現在の観光案内所は城址である公園の入り口という最良の立地であることから、大変好評をいただいております。ただし、賃貸物件であるため増築等は不可能であり、テナント等を誘致する面積的余裕はありません。今以上の立地条件を確保できる場所以外は移転の構想はありません。物販においては、商品の見直しを短いスパンで行うなど、来場者が利用しやすい環境を整えて参ります。
- ・ 観光ボランティアガイド協会会員の皆様は、沼田市の歴史文化を紹介するため自主的に活動されています。会員募集など市の広報や SNS での情報発信、各種勉強会開催のお手伝いなど、今後も活動の充実に向け支援して参ります。
- ・ 玉原センターハウスについては、販売スペース、食堂に利用していた場所は現在使用しておらず、建物全体の老朽化が進んでおり、再利用には相当額の修繕費用や資料館等にする場合の人件費が見込まれるため、費用面での検討が必要となります。現在、市全体で進めている公共施設等総合管理計画との整合性を図るとともに、指定管理者である（株）玉原東急リゾートとも利用方法について協議をしていきたいと考えております。

〔文化財保護課〕

- ・ 地域の念願であった歴史資料館が令和元年 5 月 7 日に開館し、多くの方にご来館いただいております。新規開館ということで好評を博しておりますが、リピーターの確保が最大の課題であると考えております。まずは、「歴史に興味をもってもらう。」「地域を好きになってもらう。」ことを目標に体験学習や講演会等を開催いたします。
- ・ 市民ボランティアの育成についても、中長期的な検討課題として取り組んで参りたいと考えておりますが、まずは施設の運営管理を軌道に乗せることが先決であると考えております。歴史や文化を大切にする心や、人と人を結ぶおもてなしの心の継承、醸成のためにも、健康高齢者の豊富な知識や経験を活用する仕組み作りを検討していきたいと考えております。

○令和元年度予定

- ・ 夏休み体験教室（例：勾玉づくりなど）
- ・ 仮称「古文書講座」

#### (4) 発見とふれあいのあるまち（モノ消費からコト消費へ）

人々の観光に対する意識は大きく変化してきており、既存観光資源以外に地域に眠っている人々の生活や文化に根ざした資源に注目が集まっており、生活体験や風土・風習に関わる資源をいかに見せ、また体験してもらうかのメニューを行政、関係団体や市民などで構築を図る。

##### 【委員提案例】

- ・ 民間に埋もれている文化遺産の発掘、歴史資料館の充実と情報発信
- ・ 地域の伝統行事や伝統芸能などを観光客に体験させる仕組みづくり
- ・ 農泊推進体制の構築
- ・ 椎坂峠を活用したサイクリングロードの整備など地域、地形を活かした体験ゾーンの整備

#### <提言に対する回答>

##### 〔文化財保護課〕

- ・ 歴史資料館に来館し、沼田の歴史を身近に感じてもらうことで、個人宅に眠っている歴史資料の掘り起こしを図りたいと考えております。
- ・ 歴史資料館は常設展示室と企画展示室に分かれております。常設展示室については、「天空の城下町 沼田の歴史をたどる」をテーマに原始・古代から近現代の各時代の展示をしております。企画展示室は、奇数月にテーマや趣向を変えた企画展示を行い、偶数月については、1週間単位での貸出も可能となっており、多種多様な展示が開催されることが期待できます。  
更に、周遊券により市内街歩きの拠点を目指します。
- ・ 情報発信については、最重要課題と認識しており、広報ぬまたや市ホームページ等の活用はもちろんのこと、観光部署や観光協会、隣接する FMOZE と連携して、より魅力のある情報発信に努めたいと考えております。

##### 〔観光交流課〕

- ・ 農泊推進につきましては、現在、利根町多那区の「明るい多那地域を作る会」、薄根地区の「薄根地域ふるさと創生推進協議会」が取り組みを開始しています。いずれの団体も地域での農業体験や自然、景観を生かしたメニューをメインにしており、市といたしましても両団体と連携を図り、取り組みを支援して参りたいと考えております。

## (5) 観光イメージの確立と情報発信

沼田市の観光イメージを幅広くPRするため、カラーやサインを統一化するとともに、農産物や産業製品、伝統工芸品などの地域代表産品を地域ブランドとしてイメージさせるPR戦略の構築を図る。また、観光協会の強化、情報の一元化を図り、インターネット等を活用し、国内外に向け幅広く情報を受発信できるシステムの構築を図る。

### 【委員提案例】

- ・ 観光客が集まる観光地や飲食店等の Wi-Fi 環境の充実による情報の受発信の拡大
- ・ 観光大使の活用と活動支援の充実
- ・ 地元木材を活用したサインの統一

### <提言に対する回答>

#### 〔観光交流課〕

- ・ Wi-Fi 環境の整備は、インバウンドを含めた国内観光者の獲得にも必要な要素であると認識しておりますが、現在、インバウンド向けに使用期間を限定した通信量 Free の格安 SIM カードが空港や大手インターネット事業者などで販売されており、Wi-Fi エリア外でも通信できることから多くの旅行者の方が利用されている状況です。Wi-Fi 環境の整備には、設備、維持ともにコストがかかるため、前記の事情等を考慮し導入に係る検討をしたいと考えています。
- ・ 観光大使の活用については、現在、商工会議所青年部が選出している「沼田市観光親善大使」3名と沼田市観光協会が「観光アンバサダー」に選定している元光 GENJI でタレントの佐藤寛之さんがおります。本市といたしましては、両団体と連携を図り、効果的な場面でイベント等に参加していただくことで活用を図っていきたいと考えております。

#### 〔農林課〕

- ・ 平成 31 年度より配分される森林環境譲与税を利用し、木材を普及させるための木材製品等を制作する機会には、地元産木材の使用を検討しています。

## (6) 広域連携による観光推進

広域的なダイナミックな観光施策の展開を図るためには、県や近隣町村と観光資源間の連携、観光ルートの整備が必要不可欠であり、広域連携への取組とその差別化について積極的に推進を図る。

### 【委員提案例】

- ・ 特色ある目的別広域観光コースの設定及び統一したP R

### <提言に対する回答>

〔観光交流課〕

- ・ 現在、上越線を利用した観光推進のため、利根沼田 1 市 1 町 3 村で構成する上越線沿線地域観光活性化協議会や、長野県上田市、長野市を含む「真田道」沿線市町村で構成する「真田街道推進機構」により広域での観光振興施策を進めています。増加が見込まれるインバウンドへの対応や、国内観光需要の底上げなど、広域連携による魅力ある観光ルート造成は大変重要な課題でありますので、来年のぐんまD Cに向け、近隣市町村、観光協会と協力し取り組んでいきたいと考えています。

## (7) その他委員提案例

### ① 人口減少対策

たくさんの若者や観光客が訪れるまち作りを行い、昼間人口の増加を図る。

また、各種の少子化対策を実施し、人口減少社会の長期的トレンドをよりなだらかな下方線にする。そして、訪れる人も市民も心豊かに暮らせるまちにする。

#### 【具体的な提案】

- ・ 各種の食と農業振興策や観光振興策を実施し、多くの観光客がリピーターとして訪れるまちにする。
- ・ 若者がアクティブな身体の動きを楽しめる、森林を活用した施設を作り、若者を呼び込む。
- ・ 風光明媚な自然環境を生かした老人介護施設や医療機関を増やして、雇用を創出する。
- ・ 集落営農や農業法人を増やし雇用を創出する。
- ・ 外国人労働者を増やす。また、語学など彼らの特長を生かして地域住民との交流を図る。
- ・ 沼田市の魅力を増やしPRして、市外の人々の「ふるさと納税」額を増やす
- ・ お年寄りがボランティア活動する環境整備をする。

### <提言に対する回答>

#### 〔観光交流課〕

- ・ 観光振興の柱として「歴史・食・自然」を掲げておりますが、その中でも「食」は幅広い年齢層に訴求できる重要な要素であると考えております。今後におきましても、利根実業高校の生徒が開発に協力してくれた「えだまメンチ」や市内の飲食店が参加している「とんかつ街道」に加え、まだ、市内に眠っている新アイテムを発掘し市内外へ発信できるよう努めて参りたいと考えております。

#### 〔高齢福祉課〕

- ・ 本市では、地理的条件や人口、社会的条件、医療・介護施設の整備状況を勘案し、4つの圏域を定め、圏域ごとに介護サービスをきめ細かく提供するとともに、住み慣れた地域の中で、自分らしく暮らし続けることができるよう、支援を行っています。また、3年に一度見直しが行われる「介護保険事業計画」を基に、現状を見極めながら施設整備などを行っています。今後も、人口動向や高齢化の状況などを考慮しながら、計画的な取り組みを進めていきたいと考えております。

〔農林課〕

- ・ 集落営農、農業法人化への推進については、認定農業者等にパンフレットを配布しPRに努めています。また、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動に係る支援を行い、集落における農業を支援していきたいと考えております。

〔企画課〕

- ・ 沼田市以外へふるさと納税をした経験のある方に、沼田市の特産品のPRを行い、寄付金額の増額を目指しています。

〔高齢福祉課〕

- ・ 沼田市老人クラブ連合会が各種ボランティア活動を実施しておりますが、これを今後も促進していきたいと考えております。

## ② 行政と市民の連携・協働について

現状と課題の問題解決のために、行政と市民が連携・協働し、市民生活に豊かな関係性を取り戻し、相互扶助を具体的に推し進められるよう実現する。

### 【具体的な方策】

- ・ 市民が自ら市民を互いに助け合うシステム（地域密着型有償ボランティア制度）  
C-win を立ち上げ、市がその推進を後押しし協力する事で「お互いさま」の助け合いの心を醸成・創出し、将来的には市が中心となって、各町の C-win を継ぐことで市民生活の活性化と絆を深めることを実現させる。

## <提言に対する回答>

### 〔企画課〕

- ・ 人口減少や少子高齢化の進展に加え、近隣住民間の疎遠化等によるコミュニティの衰退や地域活力の低下などが全市的な課題になっており、今後は、従来の行政主導による地域づくりから市民の皆さんと行政との協働による地域づくりを一層進めていく必要があると考えています。

人口減少社会にあっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、市民や地域が主体となった共助による取り組みが重要となりますので、市としてはそうした取り組みを支援し、市民と行政とのパートナーシップによるまちづくりを進めて参りたいと考えております。

### 〔生活課〕

- ・ 講演会の開催や情報紙の発行などを通して、相互扶助の重要性、地域における共助の意識づくりなど、啓発事業を推進しております。地域で助け合う気持ちを持ち、地域コミュニティが活性化されることは、市が目指す「市民協働のまちづくり」に向けた重要な施策でありますので、今後とも事業の強化を図ります。